

Eあとがき

2018年の『発展D』の「Dあとがき」では、『日本語構造伝達文法・発展E』がどのようなものとなるかは分からない、と述べた。蓋を開けてみると、8人の著者による、9編の論文集となった。

この論文集の構成をみてみると、いつもの構造伝達文法による日本語関係、中国語関係の論文が5編あり、それに、国語学への提言、モンゴル語と日本語の対照研究、認知言語学の視点での「の」と「的」の研究、中国語の方言における前置詞の研究、の各1編が新しく加わっている。

このような『発展E』はどのような論文集になってるのかを知るために、それぞれの論文について簡単にまとめておきたい。

第1論文「国語学への5つの提言」は、国語学への提言という形で、国語学の改善案を示した。国語学は完全な体系であると思い込んでいる国語学者に、そうではないのだ、改善すべき点がこのようにたくさんあるのだ、と警鐘を鳴らしている。

第2論文「〈の〉および〈相対時表現〉について」は、①「の」を教室でどう扱えばよいのか、②現代日本語特有の「相対時表現」をどう理解すればよいのか、の2点につき、日本語教師への参考として、構造伝達文法の考え方を示した。

第3論文「〈未遂〉と〈未婚〉」では、「未」を、意味と構造の両面からどう捉えればよいのかを示した。「未」は、開始前の成立の否定、開始後完了までの成立の否定、単なる完了までの成立の否定を意味するとした。アスペクトを示すだけの動詞もある。

第4論文「感覚動詞と知覚動詞のアスペクト」では、両動詞のアスペクトを図示しており、画期的なことである。また、知覚動詞には瞬間動詞型のものがあり、閾値のあるものもないものがあると述べ、図示した。「肩が凝る」の7つの時相も論じた。

第5論文「モンゴル語、日本語の主格・対格表示の対照」では、モンゴル語の従属節の主語が対格表示されることを述べ、日本語古語の同様の現象と対照した。これにより、従属節の主語は主文の主語と異なるという共通の意識が想定できる、と述べた。

第6論文「日本語〈の〉と中国語〈的〉の対照研究」では、認知言語学の視点から考察し、両者は名詞をつなぐ機能があるとしている。「の」は重点化と関係ないが、「的」は重点化と関係すると述べた。また、「の」と「的」の使用可能範囲に相違があると述べた。

第7論文「日本語構造伝達文法の中国語への適用」では、すべての兼語句(兼語文)の構造がよく似ていることを構造図で示した。しかし、意味的には大きな違いがあり、4種類に分類する必要のあることを述べ、それぞれについて詳しく検討している。

第8論文「中国語の〈了〉に対する日本語表現」では、中国語の「了」が日本語の多くの表現に対応していることを、数多くの小説の原文と訳文を調査してまとめた。各例文は時相モデルでも示している。この調査は p.124 の表として結実している。

第9論文「粵語麻垌方言の前置詞」では、中国語諸方言の前置詞は、歴史的な理由から、動詞と同じ漢字で表示することが多いが、構造伝達文法の構造表示法を使って、前置詞と動詞を位置の違いで区別できることを示した。前置詞にある制限も考察した。

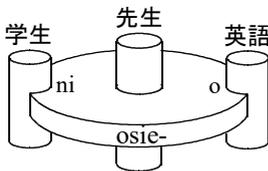
* * * * *

[実詞の基]

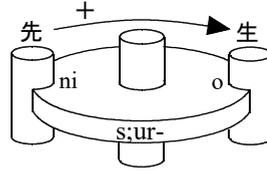
実詞(名詞)はこれまで、形態素のように扱ってきた。たとえば、「先生」である。

先生が学生に英語を教える (下左図参照)

「先生」はこれで1つの単位体のようにみえる。たしかに、「基」(合成物)としては1つの単位体である。この基の形で「師として教える人」を意味する。しかし、形態素としてみれば、ここにある形態素は「先」と「生」である。両者はもと中国語、つまり外来語、ということは実詞(名詞)である。この「先」と「生」の論理関係は「先に生をする(先に生まれる)」であり、構造は下右図のようになっている。



図ア-1 先生が学生に英語を教える



図ア-2 「先生」の構造

実詞(名詞)の形態素については、国語学関係の多くの書物で扱われており、そのため、本文法では扱いがあとまわしになってしまっている。本書p.78で、初めてこれを「先-生」のように示した。同じく「学生」「感想」を「学-生」「感-想」のように示した。

可能であれば、次のできるだけ近い機会に、実詞(名詞)を扱いたいと考えている。

* * * * *

[発展Fは辞典？]

次の近い機会といえ、次に出すのは『日本語構造伝達文法・発展F』となるが、これは、今のところ「日本語構造伝達文法辞典」のようなものがよいのではないかと考えている。研究を若い人に託すことを考えねばならない時期になっているので、この文法のそれぞれの概念が何を表しているのか、検索しやすい形になっていたほうがよいのではないかと思うからである。

2021年3月 今泉喜一

今 泉 喜 一 (いまいずみ きいち)

- 1948年 群馬県生まれ(東京都板橋区育ち)
1973年 東京外国語大学(モンゴル語学科)卒業
1975年 東京外国語大学大学院修士課程(アジア第1言語研究科)修了
1978年 国立国語研究所日本語教育長期専門研修受講
1979年～1990年 国際交流基金より日本語教育専門家として派遣される
・モンゴル国立大学 (在ウランバートル)
・在カラチ日本国総領事館日本文化センター (パキスタン)
・スペイン公立マドリッド・アウトノマ大学
1990年～ 杏林大学外国語学部講師
1993年～ 杏林大学外国語学部助教授
1998年～ 杏林大学外国語学部教授
1998年～ 韓国・高麗大学校客員研究員 (1年間)
2000年～ 杏林大学大学院 (国際協力研究科) 教授兼任
2008年 博士号取得 (学術博士・杏林大学)
2012年～ Marquis Who's Who in the World に掲載される
2014年 杏林大学定年退職

著書 『日本語構造伝達文法』(2000年版) 揺籃社, 2000

『日本語構造伝達文法』(5年/12年改訂版) 揺籃社, 2005/2012

『日本語構造伝達文法 発展A』 揺籃社, 2003

『日本語態構造の研究ー日本語構造伝達文法 発展B』 晃洋書房, 2009

『主語と時相と活用とー日本語構造伝達文法・発展C』 揺籃社, 2014

『日本語・中国語・印欧語ー日本語構造伝達文法・発展D』 揺籃社, 2018

『日本語のしくみ(1)ー日本語構造伝達文法 Sー』 揺籃社, 2015

『日本語のしくみ(2)ー日本語構造伝達文法 Tー』 揺籃社, 2016

『日本語のしくみ(3)ー日本語構造伝達文法 Uー』 揺籃社, 2017

『日本語のしくみ(4)ー日本語構造伝達文法 Vー』 揺籃社, 2019

『日本語のしくみ(5)ー日本語構造伝達文法 Wー』 揺籃社, 2020

E-mail: kilimaizu@yahoo.co.jp (→ 1: number)
(イ)

「日本語構造伝達文法」新ホームページ (「ニコデブ」で検索可能)

<https://www.kouzou.biz/bumpoo.html>

日本語・中国語・モンゴル語

ー日本語構造伝達文法・発展Eー

定価 800 円 + 税

2021年 4月 15日 発行

著 者 今泉喜一・木村泰介・関口美緒・銀柱・辛奕羸・蒋家義・
孫偉・陶天龍

発行者 比 嘉 良 孝

発 行 揺 籃 社

〒 192-0056 東京都八王子市追分町 10-4-101

TEL 042-620-2626

E-mail: info@simizukobo.com

印刷／(株)清水工房

製本／(有)宮沢製本

ISBN978-4-89708-455-8 C1081

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

ISBN978-4-89708-455-8
C1081 ¥800E

定価 本体800円＋税

揺籃社

